【保存版】
No. 59
2021年（令和3年）
10月15日発行

熊　地　区
防災のお知らせ

熊地区自主防災会
救出救護部

『災害に遭遇した時に命を守るヒント＜その2＞』

＜その1＞は2020.11　No48です

阪神淡路大震災のときに、街のなかで懸命に救援活動を行った多くの人が、当時を振り返り「薬が足りなかった」「包帯や三角巾、担架といった普段病院に行けば必ずある救急救命の道具もほとんど手に入らなかった」と証言しています。災害時はたくさんのけが人が同時に発生するのでこれらの物が入手困難になるのです。

そこで、平時より、身の回りにあるごく一般的な生活雑貨などを使って応急手当ができる技を習得しておくことが大切です。（NHK「備える防災」コラムより）

身の回りのものでできる応急手当の方法

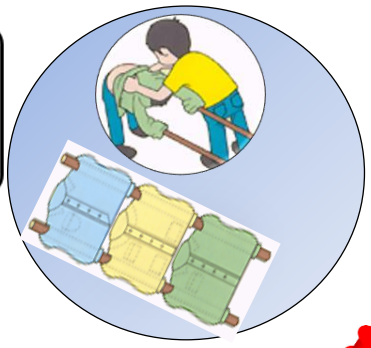
【図1】奨励されている「直接圧迫止血法」

1. 感染を防止するため、ビニール袋などで手を覆う。
2. きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当てる。
3. 心臓より高い位置に傷口をあげ、強く押さえる。
4. 止血ができれば、包帯やハンカチなどで固定する。

【図2】スーパーのレジ袋で骨折した箇所を固定する

1. 折れた骨を支えるための副木になるものを用意する。
2. 折れた骨の両側の関節と副木を、布などで結び固定する。
3. 三角巾やビニール袋などをつかって、固定した腕を首からつる。
4. より安定させるために、つり下げている布を胸にしばりつける。

【図3】毛布やシーツを担架に使う

毛布の端をクルクル巻いて持ち手をつくり、順手で.上から握って持ち上げます。

人形の足先を進行方向になるようにして、搬送を開始します！